

## ホオアカ *Emberiza fucata* Pallas

### 【選定理由】

夏期に山地の草原に生息して繁殖するが、県内の繁殖地は局所的で繁殖個体数はごく少ない。県内では 1982 年に旧下山村にある標高 650m 程度の牧場で繁殖期の生息が確認され、その後標高 1,000m 程度にある豊根村や旧稲武町の牧場でも繁殖期の生息が確認された。多い年には県内の合計で 10 ペア程度は繁殖していたものと思われるが、1984 年以降は旧下山村から姿を消し、2006 年以降は旧稲武町からも繁殖期の生息が確認されていない。しかし、2014 年までの繁殖期に豊根村で生息が確認されていることから、今後県内の繁殖が継続される可能性も否定できず、繁殖個体群については絶滅危惧 I A 類と評価された。繁殖期以外は、平野部の水辺に近い草叢や耕地に生息して、安定した数が越冬していることから、越冬個体群についてはリスト外と評価された。

### 【形態】

全長 16cm。夏羽は、頭部が青灰色で黒色の縦斑があり耳羽は赤褐色で、背は褐色で黒褐色の太い縦斑があり、下面は白色で胸に黒色と茶褐色の 2 本の横帯があり脇に明瞭な縦斑がある。冬羽は、頭部と下面に褐色味を帯びる。



愛知県北設楽郡豊根村, 2014 年 5 月 18 日, 高橋伸夫 撮影

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

夏期に山地の高原で繁殖し、冬期は平野部や沿岸部などにある耕地や河岸、水路、池沼の周辺などに生息する。

#### 【国内の分布】

北海道から九州で繁殖し、関東以西の温暖な地方で越冬する。

#### 【世界の分布】

ヒマラヤ西部、中国北東部および南部、シベリア南東部、モンゴルで繁殖し、北方のものは南下し、冬期に朝鮮半島南部からインドシナ北部に生息する。

### 【生息地の環境／生態的特性】

夏期に山地の牧草地など、開けた草地に生息して繁殖する。繁殖期は昆虫類も食べるが、植物の種子を主食とする。冬期は平野部の耕地や河川の土手などに、単独から数羽の小群で生息する。

### 【現在の生息状況／減少の要因】

1983 年までは繁殖期に標高 650m 程度の旧下山村でも生息しており、標高 1,000m 程度以上の牧場では何ペアもの生息が確認されていた。旧稲武町では 2005 年まで、豊根村では 2014 年まで繁殖期の生息が確認されていたが、その後は記録がない。減少の要因は明確ではないが、どの場所でも牧草地の様子に変化がみられ、牧畜産業の形態変化や産業の衰退などが感じられる。

### 【保全上の留意点】

県内でも希少な高原の牧場は、牧歌的な観光資源としても貴重な環境である。その観光資源を活かすためにも牧畜産業を振興し、環境の復元を行う努力が必要ではないと思われる。

### 【特記事項】

1981 年 5 月に、標高 1,000m の位置にある岐阜県ひるがの高原で探鳥会を実施して本種とオオジシギを観察したが、県内にもこれらの繁殖地がないか探したところ、共に標高 600m 前後にある旧作手村の湿原でオオジシギが 6 月に、翌年の 7 月には旧下山村の牧場で本種が確認された。

### 【関連文献】

五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸, 2014. 新訂 日本の鳥 550 山野の鳥, p.361. 文一総合出版, 東京.

(高橋伸夫)